

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 30 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570911024号
法人名	ユウゲンガイシャ 有限会社 なでしこ
事業所名	グループホームなでしこ
所在地	鹿角市花輪字下花輪124-1 (電話) 0186-30-0501
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年3月4日

【情報提供票より】 (平成22年2月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 7 人 非常勤 1 人 常勤換算 7.5 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	□有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		有りの場合 償却の有無 □有 / □無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	0 名	要介護 2	2 名
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿角組合総合病院、あんどろ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「笑いのある生活のお手伝い」を理念に掲げ、「介護度が高くなっても常に利用者には笑顔でいてほしい」と全職員が理念を共有しながらケアの実践に努めている。
事業所は近隣2つの町内会に加入し、町内会の会合場所として事業所2階のホールを提供したり、近隣事業所にも呼びかけて合同でバーベキューを行っているほか、緊急災害時の受け入れ先も担っている。
また、日ごろの雑談の中で住民から認知症ケアに関する相談を受けて情報提供したり、事業所前の除雪や洗濯物の取り込みを近隣住民が自主的に行うほか、利用者の見守りや非常時の支援体制など地域の参加やサポート体制が充実しており、ボランティアや慰問なども盛んで、地域の福祉拠点として理解と協力が得られている。
利用者の加齢とともに介護度が高くなり、身体機能や活動意欲の低下がみられるが、終末期ケアに関する方針を家族と共有するなど管理者を中心に意欲的に取り組んでおり、今後も利用者と地域との関係性の継続を支援するため職員のスキルアップに努めてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果や水害を契機に市町村との連携に取り組み、意見箱の設置場所の工夫や終末期ケアに関する方針を家族と書面で共有し、町内会を通じた利用者の見守りや調理師による栄養バランスのチェックなど具体的な改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	はじめに管理者が自己評価したものを草案として職員会議に提示し、それを基に職員間で意見交換しながら取りまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二つの町内会や利用者家族の自由な参画を促し、利用者の現況報告や行事報告を行いながら意見を求め、インフルエンザ対策やスプリンクラー設置など事業所の取り組みや方向性を確認している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置場所を変えて匿名性を確保し、運営推進会議には全ての家族が参画して意見を述べられるよう促しており、外出機会を多くしてほしいとの要望にも応えられるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の境目にあるため二つの町内会に加入し、事業所の2階部分を町内会の集会場所として提供するほか、町内会と合同のバーベキューなどで交流している。 また、地域住民の積極的・自主的なサポートもあり、事業所周辺の雪かきや洗濯物の取り込みなど、地域の一員として支え合う関係ができています。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に基本理念を掲げ、それに基づき利用者が自分らしく生活できるような援助を心掛けている。			開設当初から「笑いのある生活のお手伝い」を理念に掲げ、地域と連携しながら笑顔の絶えない生活環境づくりとケアの実践に努めている。	○	管理者及び職員は、地域密着型サービスとして地域との関わりが重要であることを理解しており、実際に地域の一人として支え合う関係性を構築しているため、地域における事業所の役割を改めて理念に盛り込むなど、職員間で検討する機会をつくってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所に掲示し、理念を念頭におき実践するように介護に取り組んでいる。			事業所内に理念を掲示し、毎月の職員会議や毎日のミーティングなどで理念を確認しているほか、共有事項を記した「伝言ノート」を活用して理念の共有に努めている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に家族へ説明している。運営推進会議に近隣自治会より代表者へ出席して頂き、代表者を通じて地域に説明をしている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近所のスーパーや商店を利用し、また通勤時や外での作業時などに声掛けや挨拶をしている。冬期間、近所の方々に除雪をしていただいている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の行事(祭り等)に参加させていただいたり、行事への会場提供をしている。また、ホームの行事に参加していただいている。	○	今行っている行事の他にも、共同で行っていただけることを探り、行っていきたい。	ボランティアによる歌や踊りの慰問、お茶会や歌会の催し、園児の訪問や発表などのほか、他事業所や二つの町内会と合同でパーベキューを行うなど事業所行事を通じても交流している。また、事業所の2階部分を町内会の会合等に開放したり、近隣住民の方が雪かきしてくれるなど日常的に支え合う関係ができています。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事などでの接触があるときや、周りの人に聞かれた時には話を聞いてアドバイスや情報提供するなどしている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については職員共々理解している。評価結果を話し合いにより改善策をだし、取り組んでいる。			はじめに管理者が自己評価を行い、それを草案として職員会議の場に提示し、職員と話し合い、意見交換しながら取りまとめている。	○	管理者及び職員は評価の意義や目的を理解しているため、できる限り職員一人ひとりが自己評価に取り組み、各自の思いや考えを全員で共有しながらケアの方針を明確にするなど、事業所全体で取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会合の場を持ち報告・連絡・協議をしている。その上で意見交換をしている。運営推進会議で話し合ったことを職員で共有し取り組んでいる。			運営推進会議には二つの町内会長や利用者の家族が自由に参画できる体制とし、主に利用者の状況報告や事業所の行事予定などを確認しながら意見を求め、取り組みに反映させるよう努めている。	○	2か月毎に会議を開催しているが、今後は外部評価結果の報告とともに課題についても提起し、事業所の機能向上をめざした効果的な取り組みにつなげてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の介護支援専門員会議に参加して、情報交換などによるサービスの向上に取り組んでいる。			スプリンクラーの設置や連絡協議会の設立など、実現に向けて適時行政担当者と相談しており、前回評価時よりも連携できている。 また、行政からの相談、依頼を受けて緊急災害時における他施設利用者の受け入れ先となっている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していない。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、まだまだ学ぶ機会も少なく、理解しているとは言い難いが、勉強会など事ある毎に話題として取り上げ、職員同士がお互いに注意を払い、見過ごすことのないように努めている。	○	防止関連の資料を基に職員一丸となって取り組んでいきたい。			
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面だけでなく、例などを挙げて十分な説明を行い、納得された上で契約をしていただいている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けている。 利用者と職員では日頃の会話などで聞き入れ対処している。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している「なでしこ便り」で暮らしぶりや職員の異動等を連絡している。 金銭管理は立替払いをして利用料の請求書と共に領収書を添えた明細書を添付して請求している。 健康状態は利用料の支払いに見えた時などに面談し、また異常のある場合は随時電話にて報告している。			事業所の行事や慰問、活動の様子を中心に「なでしこ便り」を毎月発行し、写真を添えてわかりやすく報告している。 また、ほとんどの家族が頻繁に訪問するため、面会時に利用者の状況を口頭で知らせている。	○	遠方のため頻繁に訪問できない方がいるため、個別に利用者の暮らしぶりを手紙にして知らせるなど、細やかな情報提供に努めてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、相談や苦情を外部者に伝える機会を設けている。苦情相談窓口を設置し、苦情があった場合は面会時に家族と話をし思いを引き出し、職員間で話し合いを持ち、改善策を立てるようにしている。			前回評価結果を受けて意見箱の設置場所を変更し、運営推進会議には全ての家族が自由に参画して意見や要望を述べられるよう促している。 また、家族の面会時には会話の中から意向を把握し、ケアに反映させるよう努めている。		
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね毎月1回の職員会議を管理者(運営者)と共に開催し、または、毎朝のミーティングなどで職員と一緒に意見や提案を話し合い、反映させている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせ、勤務時間の調整は必要に応じて話し合いで決定している。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はない。退職に関しては残る職員にも入居者、家族にもダメージが少ないように考えている。			ほとんど異動や離職がなく、利用者の担当制のほか全職員で利用者に関わっており、関わるうえでの留意事項や職員の気づきは「伝言ノート」に記載して共有している。 また、退職した職員には行事などの際に呼びかけ、事業所を訪れてくれる機会をつくるなど利用者との関係性の継続に努めている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画による機会の確保は出来ていないが、ヘルパー等の資格取得の推進や、必要な研修の受講を推進している。必要に応じて個別にOJTなどによりケアへの不安をなくすなど考慮している。			研修計画はないが、職員の職種や希望等に考慮しながら外部研修の参加を促しており、研修報告や「伝言ノート」を活用して研修内容を共有している。	○	前回評価でも課題としているが、職員一人ひとりの当面の目標を設定し、そのために必要な知識や技術等を明確にしたうえで内部・外部を含めた年間研修計画を作成するなど、段階的にスキルアップを図れる体制づくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の個人的な付き合いはあるが、組織的な交流の場が少ないため、地域のグループホーム協議会の立ち上げの協力を市にお願いしている。	○	組織的な交流の場をもてるよう取り組んでいきたい。	県連絡協議会の交換研修会などで他事業所と相互に訪問しながら勉強会を開催し、実践の共有や情報交換に努めている。 また、近隣事業所に呼びかけて合同でバーベキューを行い親睦を図るなど、意欲的に交流の機会をつくっている。	○	前回評価でも課題としている地域の連絡協議会の設立について、行政や他事業所も徐々に必要性を認識してきているため、行政や他事業所と連携しながら継続して取り組んでほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	出来るだけ意見を交換できる場を設け、少しでもストレスの軽減になるように努めている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の話に傾聴し、向上心を持って働けるように努めている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症であれば基本的に受け入れる方針。事前に要介護認定の確認、診断書を提出してもらっており、家族の希望、本人との面談を行い十分検討している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族の相談時及び契約時に説明等を行い、同意を得ている。 相談があれば随時受け止めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用だけでなく、適切な他のサービスの紹介など現時点で出来るアドバイスを行っている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得したサービスを利用し、けるために医療機関、家庭、職員が情報を共有し、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人、家族等、相談しながら工夫している。		自宅で使用していた物の持ち込み。		事前に事業所を訪れ、家族だけではなく本人からも見学してもらい、事業所の実際の様子を感じて納得したうえで利用につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の何気ないコミュニケーション等を通じて、信頼関係を築いている。 時には利用者に歌や生活の知恵や地域の歴史などを教えてもらうこともある。				利用者の状態が重度化してきており、利用者が直接できる事は少ないが、これまでの経験や生活の知恵を職員が生活の中で教わりながらサービスに生かしている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の面会時には声掛けを行い、利用者の近況などを報告し、情報交換に努め、家族がどんなことでも言えるような雰囲気を作るように心掛けている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られた時は本人の日常の様子、体調面などを話したりして一緒に支えていけるような支援をしている。 電話での対応をしたり、月1回「なでしこ便り」を送付している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望者には馴染みの理美容店の利用や、店を利用できるように支援している。 電話や手紙などの支援や友人・知人が気軽に来訪できるように雰囲気作りに努めている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良い関係を築けるような支援を行っている。(間に入って話を盛り上げる。言い換えて話すなど) ドライブ等一緒に外出する機会を持っている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院によりサービス利用を終了された方のお見舞いに行ったり、他施設に移られて終了された方の面会に行ったりして、家族の迷惑にならない形での付き合いは大切にしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、知人から情報収集アセスメントし、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。				加齢や介護度の上昇により利用者の意欲が低下しており、意向や要望の把握が困難となってきたが、これまでの関係性と生活リズムを踏まえ、状態や場面に応じて選択肢を示しながら促すなど、少しずつ表現できる環境づくりに努めている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人から情報収集アセスメントし、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録、トイレのチェック、食事の量、心身の状態を把握するように努めている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし介護計画を見直しを行い、家族からの情報も大切に、本人の考えに基づいた介護計画の立案に努めている。				計画作成担当者と管理者が検討しながら介護計画の草案を作成し、職員会議時に担当職員の気づきや全職員の意見を確認のうえ、利用者のニーズや家族の意向等を突合させて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は必要に応じ適宜見直しをしている。				3か月毎にモニタリングを行い、日々のケアで感じている利用者の心身状態の変化やニーズをまとめ上げ、併せて前回のモニタリングの結果と照らし合わせながら定期的に計画を見直している。また、職員の気づきや状態変化などで緊急性がある場合は、随時に見直している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、睡眠、食事量など個人の状態がわかるシート、介護記録を用意し個人の状態を記録している。職員はそれをもとに情報を共有し実践している。						
3. 多機能性を活かした柔軟な支援									
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている					通院支援やターミナルケアなど、利用者及び家族の状況や意向に応じた支援体制を整えている。また、日ごろの近所付き合いから介護相談を受けて情報提供や助言している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働									
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	歌や踊りなどのボランティアの受け入れや近隣の保育園との交流をしている。消防や警察には協力をお願いし、すぐに対応できるような体制ができている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するための話し合いはしていない。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にこれといった協働はしていない。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院での定期受診時に職員が同行し（家族が同行出来る場合は状況の共有に努め）、日常の変化や気に掛かる点などを報告・相談し、健康管理を行っている。 かかりつけの薬局で薬に関する情報を得ている。			これまでの利用者とかかりつけ医との関わりを継続しており、定期受診や往診のほか、緊急時には協力医の総合病院へ受診するなど連携している。 また、協力歯科医による往診やかかりつけ薬局からの薬剤指導など、医療面での充実に努めている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	いつでも相談できるよう、かかりつけ医とは連絡を密にし、支援できるようにしている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている						
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換や相談に努め、入院時の状態や退院に向けての連携が整っている。	○	治療が落ち着いた時点で施設内でのリハビリが可能な限り早めに退院に向けての働きかけを行う。			
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは入居後、信頼関係を築き早い段階で終末期における希望を聞くようにしている。 病状が悪化した時点で、本人家族、医療機関と相談して方針を立てている。			前回評価結果を受けて終末期ケアに関する方針を明確にし、利用契約時に自宅、病院、事業所での看取りなど家族の意向を書面で確認している。 また、利用者の重度化が進んでいるため、事業所全体で終末期ケアの実践に向けて取り組んでいる。		
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換をして、スムーズに住み替えが出来るようにしている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保、業務上知り得た秘密の保持には努めている。 利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、状態に合わせたさりげない声掛けを行っている。			利用者には方言を交えながら声かけし、利用者の動きを察知して排泄時の誘導や食事時の介助に努めている。 また、個人情報の取り扱いに関しては利用者及び家族から書面で同意を得ており、職員間で共有しながらケアの実践に努めている。	○	書類や個人記録、薬の管理に関しては事務所内で管理しているが、第三者も多数出入りする場所のため、鍵の掛かる書庫や倉庫などに保管のうえ管理してほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ利用者からの意思表示が出来るよう話しやすい環境を作るよう努めている。 その方のレベルに応じた対応をして、少しでも自己決定してもらうようにしている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まった時にさせていただいているが、その他は一人一人のペースで生活していただいている。			加齢や重度化に伴い体を動かす事が困難となっており、昼食後に居室で横になる方など利用者の状態やペースに合わせ、レクリエーションや歩行訓練等も利用者の負担にならないよう配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれや身だしなみには気を配っている。 理容は2～3ヶ月に一度きていただいているが、本人の希望があれば行きつけの店に行けるよう支援している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は以前は一緒に行っていたが、現在は職員が主に行っている。 献立を相談したり、好みのものを取り入れたり、野菜の下ごしらえや片付けを出来る範囲で行っている。			季節の食材を使用したり行事に合わせて献立内容を工夫するなど、利用者の好みや要望に応じて献立を作成している。 また、近所のスーパーに弁当を注文し、利用者の状態に合わせて高齢者向けの調理や味付けとしてもらうなど配慮している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好を楽しめる支援は日常的に行っているが、喫煙や飲酒の希望者は現在いない。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄リズムのつかめない方については排泄チェック表をつけてパターンを把握し、また利用者の様子を伺いながら声掛けし促しや誘導を行っている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	週2～3回で曜日や時間を職員の都合で決めている。		週2日の午前中を基本の入浴日とし、希望があれば時間帯を変えて柔軟に対応できるよう配慮している。 また、身体機能低下により入浴介助が困難な場合は機械浴で対応し、入浴を拒む方には部分浴や清拭などで清潔の保持に努めている。	○	前回評価でも課題としているが、管理者は職員体制の変更など柔軟な入浴支援体制を構築したいと意欲的であるため、重度化に伴う利用者一人ひとりの意向に対応できるサービス提供体制を検討してほしい。	
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠や休息の必要性は職員が理解し、利用者が安心して休息できるようにしている。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたむことや、食事時の声掛け、テーブルふきなどを行ってもらっている。 歌を歌ったり、裁縫（雑巾縫い）、以前からみていたTV番組を観たりして思い思いに過ごしていただいている。				前回調査時よりも利用者の体力や身体機能が低下し、活動意欲も低下してきているが、洗濯物たたみや山菜の処理、ツリーの飾り付けなど可能な範囲で役割を担っている。 また、貼り絵や習字などのほか、元聖歌隊の方による歌やハーモニカなど、視覚や聴覚で楽しめる内容を工夫している。	
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あくまでも利用者の力量に応じて可能な利用者のみ本人管理。 基本的にはお金を所持しないこととしており、事務所で立替払いをしてまとめて請求している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば対応している。				利用者の身体機能低下により日常的な外出機会の確保が困難となりつつあるが、駐車場での日光浴や馴染みの美容室へ出かけるなど支援している。	○ 利用者の重度化に伴い活動意欲も低下してきているが、前回評価でも外出機会の充実を課題としているため、閉じこもることのないよう今後も引き続き工夫しながら取り組んでほしい。
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回、みんなで地域の行事や花見、紅葉に出かけている。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望により電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時は本人の居室、食堂やホールなど好きなところで談話してもらっている。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしなくても安心安全な介護が出来るよう方策を考えながらケアを考えて行っている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	道路に面している勝手口、物品庫、夜間の防犯のための玄関施錠以外は鍵は掛けていない。外出の明らかな察知については玄関のチャイムで知ることが出来る。			日中は玄関に鍵をかけず、センサー設置や居室ドアの風鈴などで利用者の行動を把握している。また、前回評価結果を受けて町内会を通じて協力を求め、地域と連携しながら利用者の見守りと安全確保に努めている。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに関わることは、他の利用者にも見られたり知られたりしないよう心掛け、常に利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐ取り組みはしている。個々のレベルに合わせて危険と判断した場合は職員間で話し合いをして対策を考えている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった際には事故報告書を作成し、事故の原因、問題点、再発防止対策の話し合いを行っている。ヒヤリハットを伝言ノートに記載して情報の共有化を図っている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署の救急講習を全員が受けている。	○	これからも定期的に行っていきたい。			
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難経路、避難場所は決まっている。近隣の方を交えた避難訓練を毎年行っている。			年2回の避難訓練に町内会の参加を呼びかけ、実際の緊急災害時には、事業所の外での車イス介助や利用者を保護する役割をお願いしている。また、非常食などの備蓄品も十分に完備されており、スプリンクラーの設置についても行政と相談している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族にはその方の状況に応じリスクについての説明は行っている。抑圧のない生活についても家族に理解を得るようにしている。					
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、利用者の表情や行動等を観察し、早期発見・対応に結びつけ、連絡ノートや申し送りをしている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人記録に服薬リストが明示されており、薬効等をいつでも確認できるようにしている。1週間分の服用ケースを用いて飲み忘れ、誤飲等を防止している。服用後の様子を観察し、症状の変化等の確認に努めている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分摂取、運動等には気を配っているが、排泄チェックにより排便の把握、下剤服用の必要性の有無により服薬していただいている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床、就寝時、毎食後声掛けし口腔内を清潔にしている。入れ歯を使用している方は、1週間に1回ポリドントにより洗浄している。口臭がひどい場合は歯科医に相談治療をしてもらう					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や量を記録し、栄養バランスがとれるよう支援している。			前回評価結果を受けて地域の調理師に栄養面のチェックを依頼したり、近隣福祉施設の献立表を参考にしながら栄養管理に努めている。また、食事や水分摂取量を記録して栄養バランスを把握し、食欲のない方には捕食として栄養食品を提供するなど配慮している。	○	利用者の状態によっては専門家による栄養指導が必要な場合も考えられるため、今後は栄養チェックのほか具体的なアドバイスも受けられるよう工夫してほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルがあり、それに準じて行動している。毎年インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員が受けている。	○	外部からの感染症予防のために、来客者に設置している消毒液で手の消毒をしてから入ってもらうようにしていきたい。			
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾などは毎食後消毒をしている。食材は賞味消費期限に気をつけ、週2～3回の買い物で使い切るようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は以前料亭だったものを内部だけ改築したものであるため親しみやすいと思われる。玄関先の花壇に花を植えたり、車寄せだったところにいすを並べたり、工夫している。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や臭いがないように心掛けている。季節の花を飾ったり、行事用の飾り付けをしたりして、季節感を出す工夫をしている。			元料亭のため格子戸を使い、共有空間は日当たりがよく、季節感のある飾り付けや観葉植物などで家庭的な雰囲気づくりに努めている。また、前回評価結果を受けてスペースを有効的に活用し、ソファを並べて家族の訪問時にくつろげる場所にするなど工夫している。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人になれる場所は少ないが、入居者同士と一緒に過ごせる場所はある。全く一人になりたい時は自室でいつでも自由に過ごすことができる。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団を使用させていただいている。家具の配置など、利用者や家族の希望に添うようにしている。			建物が元料亭のため、居室の広さや間取りが異なり、備え付けのベッドと暖房以外はタンスなどの家具や家族の写真などを飾りながら生活空間づくりに努めている。	○	地域の特性上コタツを持ち込む方が多いが、身体機能低下により床に直接座ることが困難となるなど、今後は利用者の重度化に伴う生活空間づくりについて家族と相談しながら工夫してほしい。
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場はクーラーに頼らないで窓開けによる換気通風で調整を行っている。冬場は換気扇や天気の良い日の窓あけで換気を行い、加湿器などで湿度の調整を行っている。居室は本人が出来る場合は声掛けし、出来ない場合は職員が行っている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下やトイレに手すり、全床クッションフロア、などの工夫をしている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に室名札やネームプレートを、トイレには表示をつけている。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小庭での花や野菜作りをしている。玄関先にベンチやいすを置き日光浴など出来るようにしている。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)